

# 消化器検診 Newsletter

[日本消化器がん検診学会関東甲信越支部機関紙]

No.100

発行所: 日本消化器がん検診学会  
関東甲信越支部  
〒183-0042 東京都府中市武蔵台2-9-2  
東京都がん検診センター  
消化器内科  
TEL/042-321-0711  
E-mail:kantou@jsjcs-kanto.jp

## 関東甲信越支部長就任挨拶

### ご 挨 拶



日本消化器がん検診学会関東甲信越支部  
支部長  
入口 陽介

平成27年4月より関東甲信越支部 支部長に就任いたしました、東京都がん検診センターの入口陽介でございます。関東甲信越地方会の設立から現在まで、歴代の先輩方が消化器がん検診の発展に尽くしてこられた輝かしい業績を振り返りますと、支部長としての責任の重さに身が引き締まる思いがいたします。

関東甲信越地方会は、1971年、当時、国立がんセンター集検部長 市川平三郎先生が中心となって設立されました。全国に先駆けて、放射線部会、保健衛生部会、超音波部会を設立し、精度管理手法の研究・普及に力を注ぎ、また、定期機関誌の発刊、現在の『消化器検診News letter』による支部会員同士の情報共有などの多くの事業を行ってまいりました。しかし、我が国における消化器がんの死亡率は未だに高く、がん検診を取り巻く環境も変化してきており、多くの課題が残されております。さらに、2025年には我が国の発展を支えてこられた団塊の世代が後期高齢者となり、医療費の増大が予想されることから、医療行政に関する検討が厚労省はじめ自治体のなかで活発化しております。

一方、関東甲信越地方会は、独立した収支会計を行うことができる地方会組織でしたが、2013年4月から本学会のなかの1支部となりました。しかしながら、会員数も支部では最大であり、

これまで以上に消化器がん検診における我が国の牽引役として情報を発信する必要があり、新たな取り組みを進めていかねばならないと考えております。また、関東甲信越支部は、消化器がん検診に関わるすべての職種の協力体制が整っており、医師、診療放射線技師、臨床検査技師、保健師、医師会、技師会、健康福祉に関わる行政関係者、さらには患者の会の皆様のご意見を反映して、地域に密着した活動を行っていく所存でございます。

とくに、会員の皆様には、どうぞ忌憚のないご意見を頂き、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願いいたしまして、支部長就任のご挨拶とさせていただきます。

平成27年 4 月吉日

## 目 次

|                              |             |    |
|------------------------------|-------------|----|
| 関東甲信越支部長就任挨拶                 | 入口 陽介       | 1  |
| 「関東甲信越支部（地方会）40周年を迎えて」（五十音順） |             | 3  |
| 超音波部会                        | 今村 清子       |    |
|                              | 大波 忠        |    |
|                              | 岡庭 信司       |    |
|                              | 假屋 博一       |    |
|                              | 久保田 瑞子      |    |
|                              | 小島 正久       |    |
|                              | 櫻井 諭        |    |
|                              | 竹原 靖明       |    |
|                              | 荻原 毅        |    |
|                              | 比佐 岳史       |    |
|                              | 森 秀明        |    |
|                              | 依田 芳起       |    |
| 日本消化器がん検診学会関東甲信越支部           | 第75回地方会開催案内 | 18 |
|                              | 第75回地方会会長挨拶 | 19 |
| 第75回地方会プログラム                 |             | 20 |
| 第75回地方会ポスター                  |             | 22 |
| 第75回地方会ベストイメージングコンテスト        |             | 23 |
| 第4回千葉セミナー案内                  |             | 24 |
| 第11回長野セミナー案内                 |             | 26 |
| 第2回ハンスオンライン案内                |             | 27 |
| 平成26年12月5日開催代議員会議事録          |             | 28 |
| 編集後記                         | 渡邊 綾子       | 31 |

## 「関東甲信越支部（地方会）40周年を迎えて」

### 日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会40周年を記念して

神奈川県労働衛生福祉協会  
今村 清子

地方会の機関誌である「消化器検診 Newsletter」の No.90に掲載された、林學先生の記述によると、昭和46年2月5日に第1回の関東甲信越地方会が市川平三郎世話人代表のもとに開催され、翌年の昭和47年9月3日の第2回の設立集会時に、正式な関東甲信越地方会が発足した、とある。当時、私自身は横浜市立市民病院に大学から派遣され、内科医師として多忙な日々を過ごしていた。進行胃癌の終末に遭遇するたびに、何とか早期で治療できる胃がんを発見したいという気持ちが、開始されたばかりの横浜市胃集団検診へ傾倒していくことになった。当時どこの市中病院でも医療スタッフの充実は大きな問題であったが、幸いにも、横浜市立市民病院の放射線技師は優秀な人材が多く、胃集検事業に特に精力を注いでいたのが、橋本光二氏であった。今でこそ標準撮影体位に組み込まれている前壁撮影法は、彼の努力なくして語れない。特に逆傾斜をかけて数分で行う集検車での撮影法については、この地方会、本学会でも数えきれないほど発表を繰り返してきたが、薄層法・粘膜レリーフ法などが前壁撮影法として認知されていたため、なかなか受け入れられなかった。しかし、その後、撮影法に関しては、市川先生を中心とする検討が重ねられ、有名なストマップなどを基盤に、現在の新撮影法の基礎となる二重造影法が確立された。

また、第3回は、当時癌研健診センター長であった渕上有彌先生が会長となり、放射線部会、保健婦部会の設立に向けての活動が開始された、とある。これらの基盤が、精度管理の基礎となる撮影技術の向上と受診者拡大に向けての啓発活動を活発にさせ、全国に先駆けての技師・保健師の役割が明確になり、X線による胃がん検診の存在が大きくなっていった。以後、医師・技師・保健師のチームワークを大切に関東甲信越地方会の発展と功績は、本学会を引っ張って行く原動力になっていったように思われるが、その後の数十年の間に検診に携わる多くの医療従事者が感じているように、胃がん検診そのもののあり方が大きく様変わりをしている。

現在、胃がん検診の方法がいろいろ議論されているが、この40年間に胃癌の死亡率は大きく減少している。検診のみがその要因ではないかもしれないが、検診を毎年受けることで確実に胃癌は助かる疾患に位置付けられている。撲滅に向けて、まだまだ私たちの力を維持し続けることが必要であることを痛感している。その意味で、この歴史は尊いものであろう。

## 超音波部会と地方会学術集会

全国設計事務所健康保険組合  
大波 忠

第72回学術集会が中島美智子（埼玉医科大学）会長のもと、平成24年 9 月 8 日に、大宮ソニックスシティで開催された。超音波部会では、第14回超音波部会学術集会として、一般演題 5 題、教育講演『肝細胞癌のhalo・mosaic pattern って何？』、ハンズオン『けん診でどこまで粘る？～胆と臍～』、シンポジウム『お任せ下さい、超音波けん診～より高い安心と信頼を得るために』、ザ・ベストイメージ・コンテストの企画を立て参加した。

1998年、超音波部会設立を丸山雅一地方会代表世話人代行に申請し、企画調整会議・常任世話人会の審議を経て、第57回地方会・総会（1999年 3 月・埼玉）で正式に承認され超音波部会が発足した。第58回地方会（1999年 9 月・東京）では一般演題 9 題、第59回地方会（2000年 3 月・群馬）では一般演題 3 題を超音波部会から発表した。

第60回地方会（2000年 9 月・神奈川）が今村清子会長のもと開催され、それ以後、地方会は年 1 回の開催に変更され、放射線部会・保健衛生部会・超音波部会の 3 部会も地方会学術集会に参画することとなった。

第 1 回超音波部会学術集会は、1999年11月、コニカ株式会社会議室（新宿野村ビル）において創立記念として開催したが、以後の超音波部会学術集会は地方会学術集会に併設して行う事とした。超音波部会の参入で臨床検査技師が会員になったこともあり、地方会学術集会は複数の会場を使用するようになった。

第60回地方会において、午前の部として第 2 回超音波部会学術集会を併催し、シンポジウム『腹部超音波検診における走査法』、教育講演『US所見の撮り方・読み方』をテーマに肝疾患・胆膵疾患を企画した。午後の部は文化講演および、丸山雅一先生の司会で、市川平三郎先生・竹原靖明先生の60回記念対談『新世紀へつなぐがん検診の期待を語る』が行われた。

超音波部会は地方学術集会の位置づけを、地方会会員全体を対象とし会員の進歩向上に寄与する事とし、教育講演はトピックス・先端的なもの・学術的なものを企画し、第一線で活躍されている超音波専門医を招聘して行い、シンポジウムは『超音波所見の記載と読影体制』、『腹部超音波検診の走査法』、『走査法基準化（案）』、『描出のテクニック』、『超音波レポートの書き方』をテーマに、技術・方法・方式などに対する討論を行ってきている。

今後も、支部に名称変更した学術集会を継続し、更に発展させて頂きたいと思う。

## 関東甲信越地方会超音波部会 創設の経緯

全国設計事務所健康保険組合  
大波 忠

超音波検診の精度向上と拡大を目的に、日本消化器集団検診学会では総会および秋季大会時に、『超音波集検懇話会』を開催してきた。しかし、懇話会には、超音波検診を担う多くの医師が集まり指導的な役割を果たしたが、経済的、物理的理由から超音波検診でプローブを握る技師の参加は少なかった。超音波検診の充実には、何よりも、直接プローブを握る技師の結集が不可欠である。そこで、超音波技師の教育、育成を行うには、多くの技師が参加しやすい体制作りが必要であると考え、学会各支部に『超音波部会』を設立し、そこを拠点に活動を展開する方針を立てた。先駆けとして、関東甲信越地方会に『超音波部会』を立ち上げ、全支部に『超音波部会』を普及する活動が始まった。以下の記載は、『超音波部会』の創設の経緯を時系列に纏めたものである。(敬称略)

- 1998/05/29 日本消化器集団検診学会総会・第26回消化器超音波集検懇話会（大阪）
- 1998/05/30 藤井照巳（関東甲信越地方会放射線技師部会常任世話人）と懇談  
■参加者：竹原靖明／小野良樹／大波 忠／假屋博一／山田清勝
- 1998/10/06 藤井照巳（関東甲信越地方会放射線技師部会常任世話人）と懇談  
■参加者：竹原靖明／小島正久／大波 忠／山田清勝
- 1998/10/16 日本消化器集団検診学会秋季大会・第27回消化器超音波集検懇話会（千葉）
- 1998/10/16 関東甲信越放射線技師部会常任世話人と懇談  
■参加者：  
・放射線部会：石渡良徳（代表世話人）／藤井照巳（常任世話人）／海老根精二（常任世話人）  
・竹原靖明／小野良樹／小島正久／増田英明／大波 忠
- 1998/12/03 第1回超音波部会設立準備会（中央区浜町）  
■出席者：  
・地方会事務局：佐藤 忠（事務局長代理）  
・放射線部会：石渡良徳（代表世話人）／藤井照巳（常任世話人）  
・超音波部会：竹原靖明／小野良樹／小島正久／大波 忠／山田清勝  
■議題：  
・超音波部会設立の趣旨説明  
・組織作りについて  
・丸山雅一（地方会世話人代表代行）に超音波部会設立の要請
- 1998/12/15 地方会企画調整会議  
■超音波部会 承認



- 1999/01/07 第2回超音波部会設立準備会  
■出席者  
・小野良樹／大波 忠／山田清勝  
■議題  
・超音波部会入会状況  
・超音波部会役員（案）について  
・今度の運営について
- 1999/02/18 第3回超音波部会設立準備会  
■出席者：  
・竹原靖明／小野良樹／小島正久／大波 忠／山田清勝／鳥海 修／  
假屋博一／藤田光広／橋本昭宏／乾 篤仁／佐藤桂子  
■議題：  
・地方会常任世話人会、地方会総会にむけての協議  
・超音波部会組織作り
- 1999/02/19 地方会常任世話人会  
・超音波部会設立趣旨説明（小野良樹）  
・超音波部会設立 承認
- 1999/03/06 第57回日本消化器集団検診学会関東甲信越地方会・総会（埼玉）  
・超音波部会 承認  
・発足の挨拶 小野良樹
- 1999/03/17 第4回設立超音波部会準備会  
■出席者：  
・竹原靖明／小野良樹／小島正久／増田英明／大波 忠／山田清勝／  
鳥海 修／假屋博一／藤田光広／橋本昭宏／佐藤桂子  
■議題  
・超音波部会会則（案）を作成  
・超音波部会案内を作成  
・超音波部会役員候補を選出
- 1999/06/30 1999年度第1回超音波部会常任世話人会
- 1999/07/29 1999年度第2回超音波部会常任世話人会
- 1999/09/04・05 超音波部会役員研修会／1999年度第3回超音波部会常任世話人会  
■会場：日本大学八海山セミナーハウス
- 1999/11/11 1999年度第4回超音波部会常任世話人会
- 1999/12/02 第1回超音波部会学術集会／総会  
■会場：コニカ(株)講堂（新宿野村ビル15F）  
■参加者：181名

\*胃集検通信No.49（1998/12/01）超音波部会創設準備の意見を掲載

\*胃集検通信No.50（1999/02/25）超音波部会発足によせて（代表世話人代行：丸山雅一）

\*news letter No.70（2005/03/25）消化器超音波検診（集検）のあゆみ（超音波部会顧問 竹原靖明）

## 超音波、そして竹原靖明先生との出会い

飯田市立病院 消化器内科  
岡庭 信司

大学3年の夏、バイクの事故のリハビリ生活をしていたところ数日の高熱の後無尿となり緊急入院となった。この時、当時の主治医が小さなポータブルの超音波観測装置を病室に持ってきてベッドサイドで腎臓の検査をしてくれた。これが超音波と私の出会いである。その当時のモニター画面は写真の手札サイズくらいしかなく、画像も腎臓の皮質と髄質がかるうじて分かる程度であったように記憶している。

その後なんとか医者になり佐久総合病院に赴任した。そこで消化器疾患の指導をしていた弓野明彦先生より超音波の指導をうけたのが2度目の出会いである。まもなく診療所勤務となったが、幸いなことにそこには有り余る時間と超音波観測装置があった。そこで、全ての入院患者さんに超音波を行い、入院患者さんがいなくなると自分の体にプローブを当てて観察することに熱中した。嚥下と同時に頸部食道内を食物が通過し胃内に到達するのを見て妙に興奮したことを覚えている。

医者になって10年目にある学会にて仙台市医療センターの藤田直孝先生の提示された超音波および超音波内視鏡の画像を見て衝撃を受けた。失礼を承知で早速施設研修をお願いすると快く受け入れて頂いた。1年間の短い研修ではあったが毎日新しい経験があり全てが楽しかった。この仙台での臨床研修が現在の小生の“画像診断に対するこだわり”を育んだと確信している。

仙台での研修が終了し佐久総合病院に戻ったところ、長野県の東信地区に消化器研究会を立ち上げる話を頂いた。第一回の教育講演をして頂く先生を模索していた時にご紹介いただいた方が竹原靖明先生である。竹原先生といえば超音波医学会の重鎮であり小生のような者が声をかけることなど想像も付かない存在であった。そのため研究会当日は大変緊張し食事もうまく通らなかったが、懇親会の席で先生から声をかけて頂きとても嬉しかった。(最近では少々不遜な態度が目立つとご指導を頂くこともあるが...)

これが縁となりがん検診学会の関東甲信越地方会に参加するようになり、八海山セミナー(後の日光セミナー)にて講演する機会を頂いた。最初に頂いた演題は『消化管エコー』であったが、前夜の深酒に極度の緊張が加わり講演直前に幾度もトイレに駆け込んだのを思い出す。その後、長野セミナー、新潟セミナー、福島セミナー、千葉セミナーといった地区主催の教育講演会や日光セミナー(超音波部会研修会)などに同行する機会が増え、“竹原ism”を継承する技師さん達とも親しくなった。最近では本会が共催しているUSスクリーニング研修講演会(2012年は700余の参加者あり)の全国展開を肴に竹原先生と一献交えることがこの上ない楽しみである。

超音波と出会って30年、超音波を通じて竹原先生を始め多くのかげがえのない人々に出会えたことを感謝し、これからも超音波の普及・教育に関わっていくことが自分の使命と感じる今日の頃である。

## 超音波部会の歩み～思い

公益財団法人結核予防会  
第一健康相談所総合健診センター  
超音波部会 前事務局長  
假屋 博一

関東甲信越地方会で一番新しい部会「超音波部会」の発足は、超音波検診の将来を憂い超音波への熱い思いをお持ちの先生のご努力により、今の形が出来ました事を知る会員は多くは無いと思います。この新しい部会「超音波部会」は超音波を愛する先生の熱い思いから誕生し、初めは有志による手作りの部会でしたが、今では会員数も増え部会として立派に成長し「日本消化器がん検診学会地方会」の中でも一番活発な事業活動を行っています。それは「日本消化器がん検診学会各地方会超音波部会」の先駆的モデルでもあったと思います。

今から十数年前、大阪で開催された本学会帰りの新幹線車内で、「現超音波部会顧問竹原先生」を中心に、小野先生そして心を同じくする技師の熱意から超音波部会誕生へと繋がりました。その後、東京にてプローブを握る技師を交えて話し合いが持たれ、先生方のお力添えもあり地方会に待望の「超音波部会」が産声を上げたのです。

こうして、先生方のお力をお借りしながら、超音波技師が中心になり有志による手作りの研修会から始まり各種セミナー、講習会等を企画実行し今の活発な部会の原型が完成しました。

中でも、初代事務局長の大波忠技師は、立ち上げの段取りから世話人の依頼、各種研修会、セミナーの企画等々一番の基礎を作っていただきました。その功績は大変大きいものがあり、立ち上げに参加させていただきました部会員の一人として厚くお礼申しあげたいと思います。

現在、部会の活動として、超音波部会セミナー、日光セミナー、千葉セミナー、長野セミナー、地方会大会、新潟セミナー、茨城セミナー、初心者の方の実技講習会をほぼ2カ月毎に実施しています。また、地方会大会では好評の「ザ・ベストイメージングコンテスト」を行い優秀な作品を表彰し会員皆様の参加と知識向上へ大きな成果を上げています。これからも受診者のために一段と高い精度向上に取り組み、そして超音波大好きな会員の皆様と共に超音波部会のさらなる発展を願いたいと思います。今後も超音波部会の活動にご協力お願い致します。



## 日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会40周年おめでとうございます。

(社)新潟県労働衛生医学協会  
久保田 瑞子

日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会の新潟開催に先立ち、平成16年に超音波部会主催のセミナーとして「新潟セミナー」は始まりました。もっと地元に着した勉強会に参加したいとの声を受け、今年度で第8回の開催になります。

当時は、新潟での超音波の勉強会も限られており、技師も勉強会の場を求めておりました。そんな時代に、高田悦雄先生よりご尽力いただき、新潟セミナーは55名の参加者から始まりました。毎回日本消化器がん検診学会の諸先生よりお越しいただき、新潟でも最新の話題から講演を聞くことができるということで、回を重ねるごとに参加者も増え、今では180名を超える参加者とともに、勉強させていただいております。これもひとえに、事務局はじめ諸先生のおかげと感謝いたしております。平成23年に「腹部超音波がん検診 基準」が公表され、カテゴリー分類が始まったおりも、新潟セミナーでカテゴリー分類の詳しい解説を聞くことができました。まだまだ日本消化器がん検診学会の会員数の少ない新潟県で、はじめてこのカテゴリー分類を聞かれた方もあったことと思います。

また、第5回より竹原靖明先生もおいでいただき、総括いただけることも、運営スタッフ一同の励みになっております。竹原先生と、新潟セミナーの会長を務めます新妻伸二先生のお二人には、現役で実際にプローブを握っているということと、ライフワークともいえる、超音波に携わる技師の教育にかける熱意という共通点があります。セミナー終了後の情報交換会の席での、お二人のお話を伺えることもまた楽しみのひとつです。私事ですが、あつかましくも竹原先生より「USスクリーニング」にサインをいただきました。これは、大切なお守りになっています。

最後になりますが、このような記念誌に今までのお礼の気持ちを、書かせていただく機会をいただきましたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会 超音波部会

関東中央病院 健康管理科  
小島 正久

超音波部会は1999年に関東甲信越地方会に設立されました。その設立経緯については竹原靖明先生がこの記念誌で紹介して頂けるはずですが、この会は一重に竹原先生の技師教育にかける熱意の賜物です。初代の代表世話人は小野良樹先生（当時日大総合健診センター所長）にお願いし、最初の勉強会は1999年9月4・5日の八海山セミナーでした。これは新潟県浦佐の日本大学八海山セミナーハウスに世話人を引き受けて頂いた方達26名が集まり昼は勉強、夜は酒を酌み交わしながら懇親会が行われました。八海山セミナーは翌年から6月の開催となり6回続き、7回目だけ川崎で行われましたがゆったりとした懇親の場にふさわしくなく不人気で、8回目からは高田先生のご尽力で日光東照宮晃陽苑ホテルでの指導者を養成する日光セミナーとなり現在まで続いています。公の最初の学術集会総会は1999年11月27日(土)西日の当る新宿野村ビル15階コニカ株式会社会議室で当時の地方会代表世話人故丸山雅一先生のご挨拶を頂いた上で始まりました。当時はまだ運営に慣れておらずてんやわんやでしたが、みんなの熱意で181名が参加し大成功でした。この学術集会は翌年から9月の関東甲信越地方会での開催となり、第二回超音波部会総会セミナーは12月2日駿河台日本大学講堂で行い、2001年は6月、2002年から4月開催となり現在の超音波部会研修会日程として固まりました。そして更に大きな超音波検診のうねりを作ろうと日本総合健診学会との共催で2001年12月1日に第1回超音波スクリーニング研修講演会を東京電機大学講堂(増田英明先生のご尽力)で開催しました。4回目から横浜銀行ホールに移行しましたが、盛況でより大きな会場が必要となり、2011年にお台場に進出しました。この年からNPO法人超音波スクリーニングネットワークとして独立し、より柔軟な対応が取れるようにしましたが、運営の中心は超音波部会員です。また2002年2月16日に「初心者のための超音波実技講習会」ハンズオンセミナーを関東中央病院講堂で技師さん達が中心となってはじめました。このように現在5つの事業を中心に行っていますが、この体制を築いたのは小野先生と2代目代表世話人の高田悦雄先生(獨協大学第一外科)でした。高田先生は検診に消極的な日本超音波医学会に超音波部会を認知させる大きな仕事をしてくれました。3代目が私ですがどこの会社でも3代目は会社を潰すことが多いので、とにかく落ち目にならぬようなんとかやりくりし、4代目の依田芳起先生に引き継ぎ現在に至っています。今後は技師教育の拡大を図るため、各県単位のセミナーの開催を目指しています。最初は新潟、次いで長野、2012年に千葉、2013年に茨城で行われました。検診は対象臓器のがん死亡率が下げられなければ認めてもらえない厳しい状況にあるのだから覚悟を持ってやれとアドバイスしてくれた高田先生の言葉に重みを感じていますが、本学会で作った「腹部超音波がん検診基準」を全国に広め、より精度の高い超音波検診を目指すことで、竹原先生の願いを実現させるべくがんばるしかないと思っています。

## 日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会40周年にあたって

超音波部会 庶務委員長  
(公財)神奈川県予防医学協会  
櫻井 諭

関東甲信越地方会40周年おめでとうございます。

私がこの会に入会したのは、名称が「消化器がん検診学会」に変更になった平成18年になります。入会以前から「消化器集団検診学会」主催の超音波検査関連の研修会・講演会には非会員ながら、何度も参加し日常の検査業務に励んでいました。入会后、平成21年度に（公財）東京都予防医学協会の小野先生の推薦で超音波部会の常任世話人になり、現在は庶務委員長を務めさせていただいております。初めて常任世話人会に出席した時、竹原先生を始め超音波検査において第一線で活躍されている先生方や技師の皆様を目の前にして身の引き締まる思いでした。また、超音波部会を全国の各支部に先駆けて地方会の中に創設し、リードしてきたことを知った次第です。

平成23年度から超音波部会の庶務委員長として、超音波部会の会員管理をしています。会務の浅い私としてようやく慣れてきたところでありますが、今後、超音波検査の研修・講演会・実技講習会等をどのような形で知らせていけるのかと思っています。消化器がん検診における超音波検診の精度向上・人材育成を継続していくには、やはり平成24年度に実施した活動等を超音波検査に携わる医師・技師等に周知し、研修会・講演会に参加者を集め継続可能な収支となることが必然と思われます。「関東甲信越地方会」の名称としての活動は今年度が最後との事ですので、「活動を周知する手段・方法」の検討を願う次第であります。

## 消化器がん検診学会の歩みに思う

関東甲信越地方会 超音波部会  
竹原 靖明

1 昨年 (2011年) の 5 月、宗家の消化器がん検診学会は創立50周年を迎え、3,11の悲惨な東日本大震災直後であり、実行委員会の配慮により式典、祝賀会など華やかな行事を中止し、厳粛に記念講演会のみが行われ、この時発刊された「特別記念誌」には学会の内外から検診の重要性とともに本学会の充実、発展を期待する熱いメッセージが多く寄せられ、先人たちの高い先見性と逞しい歩みに深い感動を覚えました。また、この度、本学会のこの50年の歩みに深く関わり強く支えてきた「関東甲信越地方会」が40周年を迎えられましたこと、新たな感慨と共に衷心より慶賀し、更なる発展を期待するものであります。

しかし一方、本学会の一般社団法人化に伴い、この「関東甲信越地方会」が「関東甲信越支部」に名称が変更され、組織形態の改造とともに統率機構も改変されると聞き、この変更に戸惑いと将来に一抹の不安を感じております。筆者らが所属する「超音波部会」は本地方会では最も若輩で、まだ10年ぐらいの経歴しかありませんが、超音波検診に携わってきた者にとりましては、この部会には深い郷愁があり、強い思い入れがあります。それは1985年に発足した「消化器超音波検診懇話会」(本学会前日に開催される超音波検診担当者の交流会)では成し得ない充実した担当者教育を実践する場として、労苦を厭わず衆知を結集して設立したという経緯があるからです。この経緯については当時の機関誌「胃集検通信No51」と「消化器検診ニュースレター No67(小野良樹氏)、No70(筆者)」および「巻末の資料(大波忠氏)」に記載されていますので割愛しますが、この「超音波部会」の発足には検診領域における技師の役割の大きさを強く主張されていた丸山雅一先生の深い理解と協力のあったことを思い起さざるを得ません。先生の「超音波部会」の発足に寄せた熱い期待は「胃集検通信 (50号、51号)」の「視点」に書き残されていますが、先生は常に高い見識と広い視野から「医療」「検診」の在り様について領域を超えて痛烈に論じてこられ、その筋の通った物怖じしない弁舌と健筆には羨望とともに大きな敬意を抱いておりました。今、先生がご存命ならばこの現状をどの様に憂い対処されるでしょうか。筆者の手元にある「丸山語録」を読み返しますと、間違いなく「形式だけでなく、今こそ当検診学会の在り様を基本的に考えるべきである」と主張されると思います。筆者も同感であり、かねてより自問自答していたことをこの機会に述べたいと思います。

第1点は本学会のような「がん検診」を主題にした学会は他学会とは発足の趣旨も性格も異なり、その成果の分析や判定には長期間を要するものが多く、また個々の検診症例の検討にしても半年毎の学会に結論をもって報告することの困難な場合が多いのが共通の認識と考えます。周知のように胃癌検診から始まった本学会は現在消化器全域を網羅し、検診方式も10指になんなんとする種類が開発・実用化されてきました。この「検診方式」というテーマは手技や方法を定着させ、或る程度の有効性を見出すだけでも数年の時間を要し、半年という短いスパンで得られるデータは信憑性が低く確かなエビデンスたり得ないと考えます。そして中途半端な内容の発表は参加者の期待に背き、類似した内容



の反復は失望を招き、学会の権威失墜に繋がります。現状の年2回開催を継承するのであれば納得できる明確な理由と近未来の実践計画を示されるべきでしょう。敢えて私見を述べれば、DDWに参加している秋季大会は他の参加学会との連帯・交流の場になり、学際的な企画も多く、内容の充実した有意義な学会であり、若者の熱気が感じられ、今後とも是非継続すべきと考えます。しかしDDWでは検診を支えてきたコメディカルの人達とのミーティングの場がなく議論や意見の交換ができない欠点があり、これを補うのが単独で開催される総会だと思います。現在、総会は原則的にコメディカルを含めて開催し、毎回「テーマ」を変え新規な表現を用いてシンポやパネルが企画されていますが、その内容は形式も実質も従来とほとんど変わらず「陳腐」と言わざるを得ません。これは如実に参加者数の減少にも表れており、関係者の心痛の種になっています。この原因は現場の会長をはじめ実行委員の責任ではなく、年2回開催という現行の制度にあると思います。筆者は現行の総会(学会)を見直し、検診担当者(若い医師やコメディカルが中心)の教育・育成のプログラムを作成し、通常の学会や大学では成し得られない検診や臨床現場に直結した討論や講演を主にした学習の場とすることが一つの方法と考えます。この場合は所属学会や資格に関係なく講師や討論者を招き、真に実のある学習会を目指すべきと考えます。前述したようにDDW傘下では実施できない「がん検診」に特有な医師・技師共有の施策について、本邦の「消化器がん検診」の発展・充実を視野の中心に据え英知を傾けて検討されるよう理事会に熱望します。検診に求められる有効性は「確かなエビデンス」に基づくものでなければなりません。今、学会に求められているのはこの「確かなエビデンス」をどのようにして構築するか、机上の理論を現実の検診に生かすための方策を広く模索することではないでしょうか。

第2点は筆者が深く関わってきた超音波(US)スクリーニングについてであります。ご承知のようにUSスクリーニングは装置を扱う技師の技量によるところが多く、技師の教育・育成が最大の課題であり、これには経済的、時間的に有利な各地区でのセミナーやライブ、パネル討論などの取り組みが必要であり、軸足を地方会に移し「超音波部会」を設立し全国的に運動を展開してきました。これらの取り組みは担当者全体の意識の向上を促し、技術や知識も或る程度のレベルには達したと思いますが、今後更にこの方式を続けたとしても本邦全体の底上げを期待することは極めて困難と考えます。その原因の一つは現行の超音波技師教育制度にあります。この制度の改変には『超音波は単なる生体検査ではなく画像診断である』という基本的な位置付け、認識を共有する多くの医師・技師などを中心とした関係学会や医療・検(健)診現場の強い支援が必須であり、粘り強い大きな運動の展開が必要でしょう。一方、US検診の在りかたについて、沈滞しつつある現状を憂う関係者からは「USは肝・胆道・膵全体のスクリーニングに適しているか?」という基本的な問題に立ち返って討議することが重要であり、その一案として「胃や大腸検診と同様に臓器を中心に、その臓器に適した方式(モダリティー)を模索し検討すべきである」という提案があります。「USありき」という従来の慣例を破棄して、肝・胆・膵という「臓器」を中心に検診方式を模索するというこの提案は現在のUS検診の周辺に漂う閉塞感、失望感に風穴を開ける可能性を秘めた貴重な意見であり、一考に価するものと考えます。

この「法人格の変更」という節目の機会を生かして、伝統ある「消化器がん検診学会」の在り様を基本的に考え直していただきたいと熱望しています。

(2013、6、1 記)



## 超音波部会への思い

JA長野厚生連佐久総合病院臨床検査科

萩原 毅

日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会40周年おめでとうございます。私は平成10年に地方会内に発足した超音波部会の世話人を担当させていただくことになり、はじめてこの地方会の存在を知りました。そして地方会にはじめて参加させていただいたのは平成12年に群馬で行われた第59回地方会で、そのときは当院ドック超音波検査で発見された腎細胞癌についてまとめた一般演題を発表させてもらいました。それ以来、地方会にはできるだけ演題を持って参加するようにしており、超音波部会セミナーなどにも積極的に参加させていただいています。思い出に残るのは長野で開催された2回の地方会で、超音波部会の実務委員として準備段階から関わらせていただきました。準備や当日の運営は大変でしたが、多くの方たちと知り合いになり超音波検査について話ができたとなどがたいへん良い思い出になりました。また、佐久平で毎年開催されるようになった長野セミナーには立ち上げのときから企画・運営に関わらせていただきました。長野セミナーも毎回100名以上の方に参加をいただき多くの長野の技師の方たちが気軽に参加できる会になったと思います。八海山セミナー（現日光セミナー）では、宿泊での夕食のときにお酒を飲みながら講師の先生方と超音波検査に関して気軽に話ができたと大きな驚きであり、私にはたいへん刺激になりました。私が地方会や超音波部会に積極的に参加している理由はここにあります。すなわち超音波部会に参加することは、部会の設立目的である「超音波検診の精度向上と、人材の教育育成」のとおり、顧問の竹原先生をはじめとする超音波検査の分野で高名な先生方と、膝を交えてお話ができる、初歩的なことでも気軽に聞ける場であることが、実際に検査を担当する我々にとってはかけがえのない研鑽の機会であると感じています。超音波に関係する学会はたくさんあり、私もいくつかの学会には参加していますが、このような会はめずらしく、それが超音波部会や地方会の大きな魅力であると感じています。私も超音波部会の世話人として、今後も多くの超音波検診を担当する技師の方たちに、この会の良さを知っていただき積極的に参加していただけるように、微力ながらお手伝いをさせていただきたいと思っています。これからもこの会が設立目的に沿って、より多くの超音波検診を担当する技師の方たちの教育の場になっていくことを切に願っております。

## 超音波との出会い

JA長野厚生連 佐久総合病院 肝胆膵内科  
比佐 岳史

この度は、歴史ある日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会の40周年記念誌に寄稿できますことを大変光栄に存じます。

私のがん検診とのかかわりは超音波との出会いがきっかけでした。大学卒業後、一般病院の外科医になりたかった私は、先輩の勧めもあり佐久病院の臨床研修医に応募しました。「外科医として働きたい」と面接で熱く語り、直後に故・若月俊一先生に合格を頂きました。臨床研修2年目に肝胆膵内科をローテートした際に、岡庭信司先生（現・飯田市立病院消化器科）に腹部超音波検査の手ほどきを受けました。超音波検査はスクリーニングとして位置づけられており、誰もが簡単に手に入れることができる技術と思っていました。ところが、診断に耐えるきれいな画像を描出することは非常に難しく、術者依存性が高い検査であることを痛感しました。自分が描出できない病変を、岡庭先生がいとも簡単に美しい画像で描出した時の驚きと感動を今も忘れません。妻や友人に、「研修医の頃は、会えば超音波のすばらしさを熱く語っていたね。」と言われます。超音波を好きになり、今では超音波画像が診断・治療に欠かせない膵胆道領域を専門とした消化器内科として診療を行っています。

当院は人間ドックを併設した地域基幹病院であり、年間の超音波検査数は約4万件を越えています。人間ドックの超音波で要精査となった方の大部分を、当院で精査・治療しています。超音波によるがん検診の中で、膵胆道癌の早期発見は極めて難しい状況です。しかし、超音波を軸とした各種画像検査の組み合わせで、早期診断が可能となってきました。間接所見を含めた異常所見の確実な拾い上げのためには、超音波プローブを握る者の技術の向上はさることながら、さまざまな症例から学びとる謙虚な姿勢が必要と考えます。竹原靖明先生よりご教示頂いた、超音波を行う医師・技師に対する教育法を参考に、当院では定期的な症例検討会を開催し精度管理をしながら、時に飲み会で医師・技師の交流を図っています。

今後、一人でも多くの「超音波好き」を育て、超音波によるがん発見率向上を目指して、日々研鑽していく所存であります。

## 日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会40周年に際して

杏林大学第3内科  
森 秀明

私は杏林大学第3内科に入局後、腹部超音波診断を専門に研鑽をつんできましたが、十数年が経過した1996年に今まで学んできたことを一冊のテキストとして出版することになりました。タイトルは「スタンダード腹部超音波診断」で、出版後、ある雑誌に書評を載せていただくことになりました。その際、当時、関東中央病院に勤務されていた竹原靖明先生にぜひ書評をお願いしたいと思い、先生と面識がなかったにもかかわらず、厚かましくもお電話でお伺いしましたところ、快くお引き受けいただきました。それからしばらくして竹原先生から、「今度、超音波スクリーニング研修講演会を開催することになったので、第1回の会で講演をしてください。」とのご連絡をいただきました。その後、先生から日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会の超音波部会の世話人にご推薦いただき、本学会での活動が始まりました。超音波部会では毎年4月に超音波部会セミナー、9月には関東甲信越地方会学術集会（超音波部会学術集会）、超音波スクリーニング研修講演会があり、その他にも日光・長野・新潟セミナー、さらに今年度からは千葉および茨城セミナーも開催されます。これらの会で竹原先生とお会いするたびに、医師や技師教育の大切さをご教授いただく機会を持てたこと、また超音波部会での活動を通して、腹部超音波検査に情熱を持った多くの医師や技師の方々と知り合うことができたことも、私にとって何物にも変えられない貴重な体験と財産になっております。特に平成21年11月に日本超音波医学会関東甲信越地方会第21回学術集会を開催させていただきました際には、超音波部会の皆様から多大なご協力、ご尽力をいただき、無事開催することができました。この場をお借りして改めて御礼申し上げます。

超音波スクリーニング研修講演会の参加者も会を重ねるごとに増加し、平成24年12月に有明で開催されました第12回超音波スクリーニング研修講演会には700名以上の医師や技師の方々にご参加頂き、大変盛況に会を終えることができました。第1回の研修講演会の参加人数は300名前後だったと記憶しておりますので、改めて超音波部会に携わる医師や技師の皆様の熱意とご努力の賜物と思います。今後も日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会ならびに超音波部会のますますのご発展を祈念いたしますとともに、私も微力ですがお手伝いできればと思っていますので、よろしくお願い申し上げます。

## 日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会40周年によせて

山梨県厚生連健康管理センター

依田 芳起

日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会40周年おめでとうございます。地方会に関わらせていただくようになった経緯を述べたいと思います。私は昭和58年に杏林大学医学部を卒業し第3内科青柳利雄教授の研修医として入局させていただきましたが、同期の卒業生が19名同医局に入局したため、2年目の関連研修病院として関東中央病院に希望し、ここで野村益世先生、竹原靖明先生（現新横浜ソーワクリニック横浜総合健診センター）、小島正久先生に指導していただきました。この頃は検診に従事するとは夢にも思わず、研修終了後、昭和60年故郷の山梨に新設大学として開学（院）した山梨大学第一内科（鈴木宏教授）に入局を許され、平成3年に大学医局の関連で山梨県厚生連健康管理センターに勤務。当時日本消化器集団検診学会に入会、平成4年に「超音波検診における膵腫瘍発見の実態と対策」というタイトルで学会発表し、以後自施設での健診結果を定期的に発表、学会誌にも投稿し始めました。平成18年に投稿した「腹部超音波検診におけるカテゴリー分類の検討」が日本消化器がん検診学会学術奨励賞（日消集検誌 vol. 44: 1, 12-20, 2006.）をいただき光栄に思っております。現在も田中幸子先生を中心に腹部超音波がん検診基準がワーキンググループにより作成・公表され、精度管理を含めさらに良いものを提案できるよう検討を重ねている状況です。発表により多くの刺激を受け、検診レベルの向上に反省する点や優れた点を認識するのに重要な役割を担っていたと感謝しています。

関東甲信越の地方会に世話人としていつ出席し始めたのか定かではないのですが、竹原先生にお誘いを受けたのではないかと思います。超音波部会を立ち上げるに当たり、代表世話人の臨床検査技師・診療放射線技師さん(全国設計事務所健康保険組合の大波忠さんはじめ多くの代表世話人の皆さん)の熱心さには心打たれるものがありました。現在年間数回の講演会、講習会、ハンズオン、セミナーなど活発に企画し活動していますが、さらに関東甲信越の県単位での講演、セミナーを企画し、次から次へと活動している実態は学会の専門業者でもかなわないような見事な運営で感心しております。この原動力となる根源はやはり竹原先生や小野良樹先生（東京都予防医学協会）のご指導なくしては成り立たないものと思われます。現在超音波部会の代表世話人の任を受けておりますが、このお二人の先生、さらに歴代の代表世話人・常任世話人の高田悦雄先生、増田英明先生、小島正久先生、小川眞広先生、中島美智子先生、新たに常任世話人になっていただいた若杉聡先生の協力なくしては発展しなかったことと思います。頻回の講演にもかかわらず毎回準備し講演していただいている世話人の岡庭信司先生はじめ多くの先生方には心より御礼申し上げます。これも日々1例1例の症例に対し熱心に向きあう姿勢の中から新しい見解や進歩が生まれ情報を発信していただいたこと、会員は最先端の講演を聴講することができ刺激を受け情熱を持って臨床に取り組む、このような状況が現在の地方会の活気を支えてきた原動力だと思っています。

平成27年度秋には第75回関東甲信越地方会学術集会を甲府で開催させていただく運びとなりました。放射線部会、保健部会も学会の際にはわずかな時間聴講させていただいておりますが、運営、専門分野は不明の点も多く、プログラム、講演内容など多くの方々にご協力いただかなければなりません。残された期間に勉強させていただき、準備してゆきたいと思います。よろしくお願い申し上げます。今後も学会、地方会、県単位でのセミナーなど活動の場を広げ、盛り上げて行きたいと思っています。



## 第75回 日本消化器がん検診学会関東甲信越支部地方会 開催のご案内

会 期：平成27年 8 月29日(土)

会 場：アピオ甲府（セレス甲府）

山梨県中巨摩郡昭和町西条3600

会 長：依田 芳起

山梨県厚生連健康管理センター 所長

問い合わせ先：

第75回 日本消化器がん検診学会関東甲信越支部地方会事務局

〒 400-0035

山梨県甲府市飯田1丁目1-26

連絡先 （電話） 055-223-3635

山梨県厚生連健康管理センター 医事課 （宮崎）

E-mail : k-miyazaki@y-koseiren.jp

ホームページ : <http://www.jsdgs-yamanashi.jp/>

### 消化管の診断に

処方せん医薬品

X線造影剤〈硫酸バリウム製剤〉

◇パウダー製剤

硫酸バリウム散 99.1%〔共成〕

ネオバルギンEHD

ネオバルギンUHD

ネオバルギンHD

バリトップHD

バリブライトP

バリブライトCL

バリコンクMX

バリブライトLV

◇ゾル製剤

バムスターS200

バリトップ120

バリトップゾル150

バリブライトゾル180

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については  
添付文書をご参照ください。

※注意—医師等の処方せんにより使用すること

発売元 **KAIGEN** カイゲンファーマ株式会社

大阪市中央区道修町二丁目5番14号〔資料請求先 商品企画部〕  
<http://www.kaigen-pharma.co.jp>

※平成25年4月より株式会社カイゲンは  
カイゲンファーマ株式会社に変更  
いたしました。



## 第75回 日本消化器がん検診学会関東甲信越支部地方会 開催にあたって



会長 依田 芳起  
(山梨県厚生連健康管理センター 所長)

**テーマ：消化器がん検診の精度向上を目指して**

この度、第75回日本消化器がん検診学会関東甲信越支部地方会の会長を拝命し甲府の地で世話をさせていただくことになりました。本会は平成27年 8 月29日(土)にアピオ甲府（セレス甲府）にて開催いたします。伝統ある学会をお世話させていただくことになり大変光栄に思います。

今回のテーマは『消化器がん検診の精度向上を目指して』とさせていただきました。放射線、超音波、保健の各部会それぞれが尽力され、関東甲信越支部は日本消化器がん検診の牽引役を努めてまいりました。さらに新しい検査法、実施基準、判定基準、事後指導区分、安全基準など、学会内にとどまらず他の学会における共通の基準として認めていただいた経緯もあり、検診の意義がひろく裏付けられるとともに、検診の精度管理も全国共通に共有できる土台が出来つつある時期にあります。各部でこれら精度向上に向けた取り組みを検証し、今後の方向性を確かなものにする会になれば幸いです。

山梨は関東甲信越支部10都道府県で人口、会員数ともに最小県であり、至らぬ点が多々あるかと思いますが、来県していただいた会員・関係者のみなさまには有意義な会であったと心に残る運営をプログラム委員・運営委員共々心がけるつもりです。多くの会員の皆様のご支援とご参加をお願い申し上げます。

# 第75回 日本消化器がん検診学会 関東甲信越支部地方会プログラムのご案内

会 長 依田芳起  
山梨県厚生連健康管理センター所長

会 期 2015年 8月29日(土)

会 場 アピオ甲府(セレス甲府)  
山梨県中巨摩郡昭和町西条3600  
甲府昭和インター隣

参加費 3,000円

送 迎 甲府駅よりマイクロバスにて送迎  
(セレス甲府まで15分)



## 第1会場

- |              |             |                        |
|--------------|-------------|------------------------|
| ・ 一般演題 (放射線) | 9:20~10:00  |                        |
| ・ シンポジウム     | 10:00~11:50 | 「胃X線検診の読影基準」           |
| ・ ランチョンセミナー  | 12:00~12:50 | 「H.pyloriの最近の知見と診療の進歩」 |
| ・ 特別講演①      | 13:30~14:20 | 「胃X線撮影におけるピロリ菌診断」      |
| ・ 特別講演②      | 14:30~15:20 | 「内視鏡を用いたピロリ菌診断」        |
| ・ イブニングセミナー  | 15:30~16:30 | 「大腸3D-CT検査の現状と今後」      |

## 第2会場

- |                    |             |                      |
|--------------------|-------------|----------------------|
| ・ 一般演題 (超音波)       | 9:20~10:20  |                      |
| ・ 教育講演             | 10:25~11:15 | 「膵臓癌症例の検討 超音波検査を中心に」 |
| ・ ザ・ベストイメージングコンテスト | 11:20~12:00 |                      |
| ・ パネルディスカッション      | 13:30~15:00 | 「カテゴリ分類の使用経験と活用法」    |
| ・ ザ・ベストイメージング結果・表彰 | 15:00~15:25 |                      |

## 第3会場

- |            |             |                   |
|------------|-------------|-------------------|
| ・ ディスカッション | 13:30~14:15 | 「胃X線検査検診安全基準について」 |
| ・ 症例検討会    | 14:20~15:30 |                   |

お問い合わせ先  
事務局

〒400-0035 山梨県甲府市飯田1丁目1-26  
山梨県厚生連健康管理センター医事課  
TEL.055-223-3635/FAX.055-237-5889

## 第75回 日本消化器がん検診学会 関東甲信越支部地方会開催プログラム

- 一般演題（放射線） 9:20～10:00  
司会： 大高雅彦（山梨県厚生連健康管理センター）
- 一般演題（超音波） 9:20～10:20  
司会： 山口和也（ちば県民保健予防財団）
- シンポジウム 10:00～11:50「胃X線検診の読影基準」  
司会：入口陽介（東京都がん検診センター）  
見本真一（公益財団法人 神奈川県予防医学協会）  
演者：加藤勝章（宮城県対がん協会がん検診センター）  
吉田論史（慶應義塾大学病院 予防医療センター）  
水谷 勝（東京都がん検診センター）
- 教育講演 10:25～11:15「脾臓癌症例の検討 超音波検査を中心に」（仮題）  
司会：廣瀬雄一（山梨県厚生連健康管理センター）  
演者：深澤光晴（山梨大学医学部付属病院 第一内科）
- ザ・ベストイメージングコンテスト 11:20～12:00  
司会：中村 稔（医療法人社団 相和会 横浜ソーワクリニック横浜総合健診センター）  
山本美穂（早期胃がん検診協会附属茅場町クリニック）
- ランチョンセミナー 12:00～12:50「H.pyloriの最近の知見と診療の進歩」（仮題）  
司会：高相和彦（山梨県厚生連健康管理センター）  
演者：高橋信一（杏林大学医学部付属病院 第三内科）
- 関東甲信越支部総会 13:00～13:20
- 特別講演① 13:30～14:20「胃X線撮影におけるピロリ菌診断」（仮題）  
司会：小林一久（笛吹中央病院）  
演者：中島滋美（JCHO滋賀病院 総合医療科）
- パネルディスカッション 13:30～15:00「カテゴリ分類の使用経験と活用法」  
司会：岡庭信司（飯田市立病院）  
演者：大柴一希（山梨県厚生連健康管理センター）  
演者：岩下和弘（飯田市立病院）  
演者：若杉 聡（亀田総合病院 消化器診断科）
- ディスカッション 13:30～14:15「胃X線検査検診安全基準について」  
司会：大谷知恵子（山梨県厚生連健康管理センター）  
演者：小川敬子（上智大学 総合人間科学部看護学科）
- 特別講演② 14:30～15:20「内視鏡を用いたピロリ菌診断」（仮題）  
司会：花輪充彦（山梨県厚生連健康管理センター）  
演者：吉田行哉（国家公務員共済組合連合会 三宿病院）
- 症例検討会 14:20～15:30  
解説：山里哲郎（予定）（東京都がん検診センター）
- ザ・ベストイメージングコンテスト結果・表彰 15:00～15:25
- イブニングセミナー 15:30～16:30「大腸3D-CT検査の現状と今後」（仮題）  
司会：三浦美香（山梨県厚生連健康管理センター）  
演者：山田珠樹（はるさき検診センター）



# 第75回

# 日本消化器がん検診学会 関東甲信越支部地方会

「消化器がん検診の精度向上を目指して」

● 会 期 2015年 8月29日 土

● 会 場 アピオ甲府 (セレス甲府)  
〒409-3866 山梨県中巨摩郡昭和町西条3600  
TEL: 055-222-1111 HP: <http://celes-kofu.com/>

● 会 長 依田芳起 (山梨県厚生連健康管理センター所長)

● 参加費 3,000円

一般社団法人  
主 催 日本消化器がん検診学会 関東甲信越支部

大会事務局

〒400-0035 山梨県甲府市飯田1丁目1-26

山梨県厚生連健康管理センター 医事課

TEL.055-223-3635/FAX.055-237-5889

## ザ・ベストイメージングコンテスト (The Best Imaging Contest) 作品募集

第75回日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会学術集会（第17回超音波部会学術集会）において「第8回ザ・ベストイメージングコンテスト」を開催いたします。

記録された超音波写真には検査担当者の思いが込められています。日常業務で撮影された自慢のベストショットを応募してください。応募していただいた超音波写真を、応募者・所属施設を伏せて会場においてスライドショーで閲覧し、会場参加者の投票でベストイメージングを選出します。優秀賞には粗品を進呈いたします。

応募資格は医師・技師を問いません。また応募者のプレゼンテーションはありませんので、学術集会に参加できない方でも応募して頂いて結構です。

特に、出張検診で活躍されている方々の汎用機で撮影された症例のご応募お待ちしております。

### 第75回関東甲信越支部学術集会（第17回超音波研修委員会学術集会）

会 期：平成27年 8 月29日(土)

会 場：山梨県中巨摩郡昭和町西条3600 アピオ甲府〈セレス甲府〉

大会長：依田 芳起（山梨県厚生連健康管理センター 所長）

## 応募要項

### 【超音波画像】

Bモード（カラー Doppler・パワード Doppler可） 1枚（ただし2分割使用可）

超音波画像に文字、記号等はいれないでください。

### 【領域】

上腹部（肝臓、胆道、膵臓、脾臓、腎臓、消化管、腹部大動脈、その他）

### 【応募方法】

E-mailで件名を『ベストイメージング(応募者名)』とし、氏名・連絡先住所を明記の上、添付ファイル（power point）で応募してください。

〈スライド1枚目〉

氏名、所属施設名、超音波機種名、周波数、患者（検診者）の年代・性別診断名、コメント（術者の一言）

〈スライド2枚目〉 超音波画像

### 【応募先】

横浜ソーワクリニック・横浜総合健診センター

担当：中村 稔 Mail：[kensa.yokohama@sowa.or.jp](mailto:kensa.yokohama@sowa.or.jp)

### 【締め切り】

平成27年 8 月 7 日(金)（必着） \*応募は一人1点のみとさせていただきます。



2015  
**7.4**  
SAT

# 第4回 千葉セミナー

**大会長** 若杉聡 (亀田総合病院)

**会 場** 千葉市民会館 (地下 1 階小ホール) (千葉市中央区要町 1-1)

**参加費** 【セミナーのみ(予約不要)】 会員2,000円・非会員3,000円<超音波検査士資格更新指定 /5 単位>  
【セミナー+ライブデモ(要予約)】 会員 4,000 円・非会員 5,000 円  
【セミナー+ハンズオン(要予約)】 会員 7,000 円・非会員 8,000 円  
[昼食は用意されておりませんので、ご注意ください]

## ■ ハンズオン (9:30~11:30)

①肝胆脾 ②頸動脈

## ■ ライブデモ (9:30~11:40)

消化管(長谷川雄一)、胆脾(岡庭信司)  
(座長) ちば県民保健予防財団 山口和也

## ■ セミナー (13:30~16:40)

- ◆ 教育講演1「腹部超音波検診判定マニュアルの使い方を考える」  
(講師) 海上ビル診療所 杉田清香 (座長) 国保旭中央病院 関根智紀
- ◆ 教育講演2「臨床に役立つ超音波基礎工学の知識」  
(講師) 東芝メディカルシステムズ 濱滝壽伸 (座長) 国立国際医療研究センター国府台病院 是永圭子
- ◆ 教育講演3「肝腫瘍の診断とカテゴリー分類の実際」  
(講師) 日本大学医学部消化器肝臓内科 松本直樹 (座長) 亀田総合病院 若杉聡  
(敬称略)

**問い合わせ先** 電話対応はしておりません。メールのみでお願いいたします。

【千葉スクリーニングエコー懇話会事務局】 亀田総合病院 超音波検査室 小宮雅明 若杉聡

E-mail: [chibaseminar@kameda.jp](mailto:chibaseminar@kameda.jp)

○13:00~17:00 ハンズオン、ライブデモで使用した機器を展示いたします。協賛: 東芝メディカルシステムズ株

主催: 千葉スクリーニングエコー懇話会 共催: 日本消化器がん検診学会 後援: 日本超音波検査学会

## 第4回 千葉セミナー

2015年 7月4日 土 (受付 ハンズオンおよびライブデモ 9:10～)  
セミナー 12:30～

会場:千葉市民会館 (地下1階小ホール)

大会長:若杉聡(亀田総合病院)

参加費:セミナーのみ(予約不要) 会員 2,000円/非会員 3,000円 <超音波検査士資格更新指定/5単位>  
セミナー+ライブデモ(要予約) 会員 4,000円/非会員 5,000円  
セミナー+ハンズオン(要予約) 会員 7,000円/非会員 8,000円  
(昼食は用意されておりませんので、ご注意ください)

### プログラム

#### ハンズオンおよびライブデモ

9:10

ハンズオンおよびライブデモ受付

9:30

ハンズオン 9:30～11:30

①肝胆脾 ②頸動脈

ライブデモ

9:30～10:30 消化管(長谷川雄一)

10:40～11:40 胆脾(岡庭信司)

座長/ちば県民保健予防財団 山口和也

#### セミナー

12:30

セミナー受付

13:30

開会の挨拶 若杉聡(亀田総合病院)

13:35～14:35

教育講演1

「腹部超音波検診判定マニュアルの使い方を考える」

講師/海上ビル診療所 杉田清香

座長/国保旭中央病院 関根智紀

14:45～15:25

教育講演2

「臨床に役立つ超音波基礎工学の知識」

講師/東芝メディカルシステムズ(株) 濱瀬壽伸

座長/国立国際医療研究センター国府台病院 是永圭子

15:35～16:35

教育講演3

「肝腫瘍の診断とカテゴリー分類の実際」

講師/日本大学医学部消化器肝臓内科 松本直樹

座長/亀田総合病院 若杉聡

16:35～16:40

閉会の挨拶 竹原靖明

(敬称略)

#### ハンズオン、ライブデモ申し込み方法

- ①メールの件名に「千葉セミナー申込み」と記入
  - ②氏名・施設名・職種・経験年数・電話番号を記入
  - ③ハンズオン、ライブデモのいずれかを記入
  - ④ハンズオン希望者は、「肝胆脾」「頸動脈」のいずれか、希望コースを記入
  - ⑤日本消化器がん検診学会の会員、非会員を明記
- 「ハンズオンのみ」「ライブデモのみ」の申込みは受付ておりません。
  - ハンズオン、ライブデモの申込みはセミナー申込みも含まれておりますのでご了承ください。
  - セミナーのみの参加は、当日受付となります。
  - 電話受付はしておりません。メールのみでお願いいたします。
  - 1通のメールにつき、1名の申込みとなります。
  - 1通のメールに複数の申込みの場合、その申込みは受付ません。
  - 先着順ですので、定員に達し次第締め切りとさせていただきます。なお、申込みが確定次第、メールにて連絡いたします。
  - 申込み後、当日までの手続きはすべて、申込み時のメールアドレスに事務局からメールを返信してご連絡いたします。申込みの際は、事務局からメールがスムーズに返信できるアドレスをご使用ください。
  - 着信拒否等により事務局から返信メールが届かないことがないよう、メールの受信設定にはご注意ください。
  - 申し込み時のメールアドレスは、事務局からメールを返信する以外の利用はいたしません。
  - 13:00～17:00 ハンズオン、ライブデモで使用した機器を展示いたします。協賛 東芝メディカルシステムズ(株)
  - 会場の空調は、調節しても寒い場合がございます。薄手の上着を一着お持ちになることをお勧めします。

#### ◆ 問い合わせ先 ◆

【千葉スクリーニングエコー懇話会事務局】

亀田総合病院超音波検査室 小宮雅明、若杉聡

E-mail: [chibaseminar@kameda.jp](mailto:chibaseminar@kameda.jp)

#### ◆ アクセス ◆

千葉市民会館

〒260-0017

千葉市中央区要町 1-1

TEL:043-224-2431

JR千葉駅より徒歩7分



主催:千葉スクリーニングエコー懇話会

共催:日本消化器がん検診学会

後援:日本超音波検査学会



## 日本消化器がん検診学会 関東甲信越支部 超音波研修委員会 第11回長野セミナー

日 時：2015年 8 月 1 日(土) 13:30～17:00 (受付開始12:30～)

会 場：佐久大学（長野県佐久市岩村田2384）TEL 0267-68-6680

会場アクセス：<http://www.saku.ac.jp/access/index.html>（学生駐車場をご利用ください）

送迎バス：佐久平駅 浅間口12:30-13:00の予定（ピストン対応）

終了後、佐久平駅までの予定（ピストン対応）

参加費：会員2000円、非会員3000円

日超医超音波検査士資格更新指定（出席 5 単位）

### 〈プログラム〉

12:30- セミナー受付開始

13:30-13:35 開会の辞 佐久総合病院 佐久医療センター 比佐岳史 先生

13:35-14:35 教育講演 1

「消化管エコーのスクリーニング基本走査&ライブデモ（仮）」

演者 佐久総合病院 佐久医療センター 荻原 毅 先生

座長 小諸厚生総合病院 臨床画像センター 水澤幸博 先生

14:35-14:50 休憩

14:50-15:30 教育講演 2

「症状から見る、臨床医が腹部超音波検査に求めるもの（仮）」

演者 佐久総合病院 佐久医療センター 比佐岳史 先生

座長 飯田市立病院 消化器内科 岡庭信司 先生

15:30-15:45 休憩

15:45-16:45 特別講演

「甲状腺スクリーニングに求められる超音波所見」

演者 北里大学病院 臨床検査部 宇治橋善勝先生

座長 佐久総合病院 佐久医療センター 菊池重忠 先生

16:45-16:55 閉会の辞 横浜鶴ヶ峰病院 健康管理センター 竹原靖明 先生

問い合わせ：長野セミナー実行委員会事務局

佐久総合病院 超音波室 担当：上原 信吾

【TEL】0267(82)3131 内線355 【FAX】0267(81)1033

【e-mail】seirikensa@sakuhp.or.jp

## 第2回ハンズオン・ライブデモンストレーション

日 時：2015年 8 月 1 日(土)

ハンズオン 9:30～12:30 (受付開始 9:00～)

ライブデモンストレーション 10:00～12:00 (受付開始 9:30～)

当番世話人：比佐 岳史

会 場：佐久大学 (長野県佐久市岩村田2384) TEL 0267-68-6680

会場アクセス：<http://www.saku.ac.jp/access/index.html> (学生駐車場をご利用ください)

送迎バス：佐久平駅 浅間口 8:30～9:30 の予定 (ピストン対応)

午後の第10回長野セミナー終了後、佐久平駅までの予定 (ピストン対応)

参加費：ハンズオン4000円、

ライブデモンストレーション2000円

※ハンズオン、ライブデモンストレーションは事前登録が必要です

またライブデモンストレーションは会場に余裕がある場合のみ当日参加を受け付けます

共 催：日本消化器がん検診学会

### 〈プログラム〉

#### ハンズオン

9:00～ 受付開始

9:30～12:30 ハンズオン 定員30人 (各ブース6人) 先着順

腹部初級 (3ブース)

日本消化器がん検診学会 関東甲信越地方会の標準的描出法の指導

腹部中級 (2ブース)

インストラクター

佐久総合病院 佐久医療センター 消化器内科 比佐岳史先生

亀田総合病院 消化器診断科 若杉 聡先生

#### ライブデモンストレーション

9:30～ 受付開始

10:00～12:00 『肝・胆・膵の描出のコツ』

肝・胆・膵の描出に関連した講義とライブデモ

デモンストレーター

飯田市立病院 消化器内科

岡庭信司先生

登録申込方法 seirikensa@sakuhp.or.jp宛にメールで申し込んでください。

① 件名：ハンズオンまたはライブデモンストレーション申込み と記入

② 氏名、施設名、職種、

③ 連絡先および電話番号

④ 希望コース：腹部初級・腹部中級・ライブデモンストレーション

⑤ 超音波経験年数 (グループ分け時に参考とさせていただきます)

⑥ お弁当 (お茶付き) の有無 (別途 1000円)

(食事会場：学生食堂がご利用できます。持ち込み可。営業はしていません。)

※先着順ですので、定員に達し次第 締め切りとさせていただきます。

なお、申し込みが確定した順にメールにて連絡いたします。参加費は当日受付にてお願いいたします。

問い合わせ：実行委員会事務局

佐久総合病院 担当：上原 信吾

【TEL】0267(82)3131 内線355 【FAX】0267(81)1033 【e-mail】seirikensa@sakuhp.or.jp

## 平成26年度 第2回 日本消化器がん検診学会関東甲信越支部 代議員会 議事録

日 時：平成26年12月 5 日(金) 18時00分～19時30分

場 所：東京八重洲ホール201会議室

出席者数：出席25名、委任状による出席38名、合計63名

(現在数80名の過半数以上)

- 議 題
1. 平成27年度予算案報告
  2. 平成27年度事業計画案報告
  3. 第75回地方会（平成27年度・山梨）開催準備報告
  4. 第76回地方会（平成28年度・新潟）開催について
  5. 各研修委員会の活動について
  6. その他検討事項

日本消化器がん検診学会関東甲信越支部 石川勉支部長より定足数が満たされていることを確認し、石川支部長が議長となり開会を宣した。

続いて、議事録署名人に、依田芳起委員、見本真一委員を指名のうえ、審議に入った。

### 1. 平成27年度予算案報告について

入口幹事長より、  
平成26年度末概算繰越金  
平成27年度支部収支予算、平成27年度予想繰越金  
について説明があった。

水石事務員より昨年度予算案から大きく変わった、  
通信費収益の減額、支部事務局職員給料の減額、事務局移転の賃貸料の費用発生はなし  
と説明があった。

関本委員より地方会予算の広報費の支払先について質問があった。  
石川支部長より、地方会のホームページ維持を含めた費用で業者へ支払との回答があった。

宮田放射線研修委員会代表より

第38回消化管造影技師研修会は共催開催予定の為、収支は0。

先の幹事会にて会費、セミナー内容について議論され今後この事業については見直していく予定。

主催で行う事業は学術集会、収支は0となるよう開催予定。

調査研究事業は、消化管の全国調査を一度やったが時間が経っているということ、1年で



遂行できる事業ではないので、引き続き継続事業予定。

レベルアップセミナーは首都圏開催をなくし地方開催のみ（茨城・神奈川）放射線技士会と共催。

世話人会は学術集会と別に 4 回予定、経費発生はそのうち 2 回と説明があった。

石川支部長より、予算案について支部長一任とさせていただきたい旨提案があり、特に異論もなく承認された。

## 2. 平成27年度事業計画案報告

鳥海超音波研修委員会事務局長より、主催事業として

平成27年 4 月19日開催第17回超音波研修委員会セミナー（総会）世話人会併催、

平成28年 2 月開催第21回初心者のための腹部超音波検査実技講習会、と報告がありさらに、

7 月開催千葉セミナー

8 月開催長野セミナー

平成27年12月開催超音波スクリーニング

2 月開催茨城セミナー

3 月開催新潟セミナー

7 月（第 3 回）・3 月（第 4 回）の超音波に親しむ会は、共催開催予定、と報告があった。

小川保健衛生研修委員会代表より、胃X線検診安全基準冊子改定版の増刷について、改定に向けた会議を年 3 回開催予定。

さらに、平成27年度以降学会本部の名称を使うこと、2 名の理事の監修を受ける事が決定と報告があった。

## 3. 第75回地方会（平成27年度・山梨）開催準備報告

依田第75回地方会会長より挨拶があり、続いて日程は平成26年 8 月29日、会場はセレス甲府（旧アピオ）にて開催と報告があった。

## 4. 第76回地方会（平成28年度・新潟）開催について

石川支部長より、医師会の成沢先生から内諾を得ている旨、報告があった。

## 5. 各研修委員会の活動について

事業計画案にて報告済み、追加事項もなく質問等もなく、この項目については割愛となった。

## 6. その他検討事項

石川支部長より平成27年度の代議員について幹事会において 6 名を推薦と、発言があった。

小田丈二様 東京都がん検診センター

小川真広様 駿河台日本大学病院

村岡勝美様 亀田総合病院附属幕張クリニック

川上哲弘様 茨城県総合検診協会

小俣望様 栃木県立がんセンター

以上5名については特に異論もなく満場一致で承認された。

中村祐二朗様 慶應義塾大学病院（非会員）

について会員になっていただいた後、推薦する方向で報告された。

山口編集委員長より、ニュースレターについて将来、通信費収益が減ってきた場合、存続が厳しくなることが予想されるが、40周年記念原稿を今後2回に分けて掲載したい為、今後2回は発行したいと、発言があった。

鈴木委員より、賛助会員が続くのであれば、なんらかの形で情報発信する必要があると思う、と発言があった。

ニュースレターについて、今後2回の発行は承認された、それ以降は継続審議となった。

以上をもって、予定の議事を終了し、平成26年度第2回日本消化器がん検診学会関東甲信越支部代議員会を閉会した。

平成26年12月5日

平成26年度 第2回

日本消化器がん検診学会関東甲信越支部 代議員会

議長

石川 勉

⑩

議事録署名人

依田 芳起

⑩

議事録署名人

見本 真一

⑩

## 編集後記

ニュースレターも100号という節目の号を発行することとなりました。また、消化器がん検診学会関東甲信越地方会の40周年記念特集も今号で完結となります。

私は昨年度後半から編集委員としてお手伝いさせていただいておりますが、検診に携わる前は、国立病院の消化器科と循環器科の混合病棟で勤務していました。病院は、何らかの自覚症状があって来院される方がほとんどだったこともあり、当時の私は「病気になる前の取り組み、いわゆる「検診」に関して全く無知で無関心でした。

現在、ちば県民保健予防財団の消化器科内視鏡室に勤務して10年が経ち、日々、検診にお見えになる方、精密検査でお見えになる方、内視鏡でがんが発見され医師から告知を受け治療機関にご紹介となる方々と接する中で、検診という「健康な段階からの関わり」、精密検査という「診断の過程での関わり」において看護師もまた重要な役割を担っているのだと実感します。消化器がん検診の分野において検診受診率、精密検査受診率、精度管理の問題など課題はたくさんありますが林学先生、山口和也先生ご指導のもと、看護師としてできることは何かを日々考えながら努力していきたいと思えます。

公益財団法人ちば県民保健予防財団

総合健診センター 看護部 渡邊 綾子

### ■編集委員会■

編集委員長 山口 和也

編集委員 小田 丈二 岡田 義和 神宮字 広明 山本 美穂 石井 崇雄  
木村 友子 渡邊 綾子

(非売品)

# 前処置から画像診断支援まで

人々のすこやかな毎日を願い、  
より適確で  
より安心な診断ができる  
信頼ある製品づくりを。

## 新規取扱い商品

大腸・CT用検査食  
**FG-two**☆

エスピー食品と共同開発。  
味とボリュームにこだわった、簡単調理の検査食。

## 遠隔画像診断支援サービス



**G.I. Lab株式会社**

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-1  
KIMURA BUILDING 7F  
TEL : 03-5283-0981

検診に特化。  
胃X線を始め、胸部X線、  
マンモグラフィー、CT・  
MRIなど、多様な画像を  
お取り扱いします。

## 薬価基準収載

処方せん医薬品 注意・医師等の処方せんにより使用すること

【硫酸バリウム製剤】

■ 上部消化管X線造影剤

**バリテスター<sup>®</sup> A240散**

**バリオゲン<sup>®</sup> SHD**

■ 注腸用X線造影剤

**エネマスター<sup>®</sup> 注腸散**

■ 消化管X線造影剤

**バリオゲン<sup>®</sup> HD**

**バリオゲン<sup>®</sup> デラックス**

【炭酸水素ナトリウム・酒石酸配合剤】

■ X線診断二重造影用発泡剤

**バリエース<sup>®</sup> 発泡顆粒**

**バリオゲン<sup>®</sup>**

**ウムブラMD**

■ 胃内有粘性粘液除去剤

**バリオゲン<sup>®</sup> 消化内用液 2%**

(ジメチコン内用液)

■ 緩下剤

**ファースルー錠 2.5mg**

(ピコスルファートナトリウム錠)

※ 効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等詳細は、添付文書をご参照下さい。

**伏見製薬株式会社**

● 本社／香川県丸亀市中津町1676 TEL 0877-22-7284 FAX 0877-22-6284

● 資料請求先 営業企画部／東京都中野区弥生町2-41-5 TEL 03-5328-7801 FAX 03-5328-7802

仙台営業所／TEL 022-295-5667 東京営業所／TEL 03-5328-7801 名古屋営業所／TEL 052-732-8555

大阪営業所／TEL 06-6160-2431 中国営業所／TEL 082-509-2431 福岡営業所／TEL 092-413-4107